

種山ヶ原は今④

蓮華ツツジの敵は野ウサギだった！

11月30日種山ヶ原は明日から閉鎖されるので、平沢久さんと今年最後の種山ヶ原のレンゲツツジ保護活動を行ってきた。土手の松の木や笹が多くなり、刈り取りをしてレンゲツツジの生育環境を良くしようと考えたからだ。

松の木は30本以上もあった。「神棚の松に丁度いいんだけどな」と言いながら伐り、私は主に笹刈りをしながら、幼木の保護に集中した。ところが幼木の花芽が少ないことに気づいた。不思議に思い、周囲を見ると野ウサギの糞に気づいた。ここ数年花の数が少なく不思議に思っていたが、野ウサギのエサになっていたのだ。野ウサギの口の位置に丁度あっている。さて、どうしたものかと頭から離れないが、進展しない。来春、様子を見て考えようと思う。困った。



<星座の森は既に閉鎖>



<野ウサギには美味しく見えるのだろう>



笹を刈っていると、真っ赤なかわいいキノコのようなものが現れた。五輪峠で前に見た覚えがある。調べてみるとキノコではなく菌の一種らしい。



帰りは大森林道をしばらくぶりに通って帰った。途中、「賢治の森」に立ち寄ってみた。野芝がやはりきれいになっていた。まるで絨毯だ。東屋が少し傷んできたが、市にはお金がないらしい。アメダスの工事も終了し、きれいになった。

盛街道を示す案内板が見えない、笹にすっかりおおわれていた。平沢さんがすぐ笹刈りを始め姿が見えてきた。この案内板は文化財委員会で山本から七里塚までの街道探しをした7年程前に建てたものだ。1年目は道に迷い断念し、次の年種山の七里塚からと山本からの二手に分かれて踏査した結果、無事街道を確認できました。その時に建てたものです。



砂防ダム工事が始まっており、麓の山本の人達も安心して生活できるようになる。

前日29日に種山ヶ原に調査に来た時、面白い光景をみた。雄鹿にカラスが乗っているのだ。最近のカラスは集団でキツネをからかったりと色んな悪さをする。鹿には1羽、まわりに2羽。よく見ると、悪さをしている様子もない。どうやら鹿につくダニを取ってあげてるようだ。ハンターの話では、撃った鹿を見るとダニがいっぱいいろいろいるらしい。



いよいよ冬至

あと2日で冬至です。文字からも寒い感じがしますが、この日は昼が一番短く、翌日から昼が長くなるのです。全ての始まりとも言われています。世界では色々な祭りが行われているようです。

日本では、カボチャ粥にゆず湯が定番ですが、昔からの風習ですから、大切にしたいものです。

灯りのない教会で毎夕5時に鐘を鳴らす私にも待ちに待った「冬至」です。暗い中で、ましてクマ騒動の今、後ろは城跡の山の中に一人でいる臆病者の私は号令をかけて体操をして鳴らす時間待ちます。でも、21日からは毎日少しづつ昼が長くなるのです。毎日西を見ている私には日々の移りが良く分かれます。春に向い始めているのです。「は～るよこい は～やくこい・・・・」



冬の種山ヶ原を歩く人

最近種山ヶ原を歩く人がもう一人増えた。
それも高齢者だ。思う所があるのだろう。この
牧場はクマがたびたび走っている所です。気をつ
けて種山ヶ原を楽しんで欲しいと願うばかりです。
一人だから意味があるのかもしれないが。



「雪渡り」 宮沢賢治作品

「雪渡り」って知っていますか。今は温暖化でほとんど見られませんが、昔の元朝
詣りの頃は雪が凍ってその上を歩くことができました。道がなくともまっすぐに歩け、
近道が出来たものです。宮沢賢治作品「雪渡り」の冒頭でも次のように書かれて
います。

「雪渡り」 その一(小狐の紺三郎)

雪がすっかり凍って大理石のよりも堅くなり、空も冷たい滑らかな青い石……

大正10年・11年に賢治の母が会員であった「愛国婦人会」発行の『愛国婦
人』に掲載された賢治のデビュー作と言われており、賢治が生涯で手にした唯一
の原稿料(5円)と言われています。

【国際宇宙ステーション】

1月には早朝しか見えません。岩手県奥州市では1月1日元朝詣りの頃<5時
14分～18分>に北から東南の方向に飛ぶ予定です。

しかし、時間はずれるかもしれません、白く太陽の陽を浴びて飛んでいます。
正月の小さなイベントの一つになると思います。晴れますように！